③青くさくて少し渋い。皮をはずして、水にさらしてあく抜きをして細かくつぶして粉にして、何かに混ぜて食べる。

カシワ　クヌギ　アベマキ　ウバメガシ

④渋い。皮をはずして、水にさらし、あく抜きをして細かくつぶすか、粉にして何かにまぜて食べる。

アラカシ　シラカシ　アカガシ　ツクバネガシ
ウラジロガシ

＊縄文人はドングリを食べた。

縄文遺跡からドングリや木の実の貯蔵穴。

クリの栽培。

あく抜き：東日本の落葉樹林帯に住む人々は、煮る。

西日本の照葉樹林帯に住む人々は、川などで水にさらす。

石皿とすり石で製粉して、成形してから煮たり焼いたりクッキー状やシチュー状にしたりして食べる。

＊ドングリを食べ過ぎる（タンニンの取り過ぎ）と、体によくない。しかし、人があく抜きをすると、タンニンがなくなるので多く食べられる。人以外の動物も食べ過ぎには注意。

○ドングリの木を食害する動物

①ドングリに卵を産む昆虫

ハイイロチョッキリ　コナラシギゾウムシなどシギゾウムシの仲間

＊ハイイロチョッキリは、

長い口吻（こうふん）で柔らかい殻斗の下のドングリに穴を開けて、体の向きを変えて産卵します。ドングリのついた枝を枝ごと切り落とす。ふ化した幼虫は子葉を食べて成長して約４０日後に脱出します。

＊このことについて深く学びたい人は、『どんぐりの穴のひみつ』（偕成社）を読んでみてください。

②葉や芽を食べる動物

・チョウの幼虫　　シジミチョウの仲間

・オトシブミの仲間

・ゴール（虫えい　虫こぶ）：葉にこぶがついていたり、芽が異常に肥大していて、内部に虫が見つかることが多い。植物がうまく発育できないことになる。

タマバチの仲間

＊クリタマバチは、クリの新芽に侵入する。

＋もっと学びたい人は『虫こぶハンドブック』（文一総合出版）を。

③ナラ枯れ

カシノナガキクイムシが媒介するナラ菌によって、ミズナラなどが集団的に枯れる。

○ドングリの「なり年」と「不なり年」がある。

なり年・・ドングリが多く実る年

不なり年・・ドングリが多く実らない年

＊ブナは５～７年の周期で「大なり年」があり、その間、なり年と不なり年を繰り返す。

＊不なり年の翌年はドングリを食べる動物の子どもの数は少なくなる。

○ドングリの木は多くのところで利用される。

シイタケのほだ木　　薪炭材　　家具材　公園や庭の木　パルプ　など

○落葉広葉樹林と常緑広葉樹林（照葉樹林）のドングリ
：ブナ科の木はどこに自生（じせい）するのか。

落葉広葉樹林：東日本にブナやナラ類の明るい森。木の実やキノコ、けものなど豊かな森。縄文時代の遺跡が多く残る。

ブナ　イヌブナ　コナラ　ミズナラ　ナラガシワ　クヌギ　アベマキ　カシワ等

常緑広葉樹林（照葉樹林）：西日本のシイやカシ類の森は、湿り気のある薄暗い森。稲作にはぴったりで、稲作の伝播とともに開拓されていった。神が宿ると言われた鎮守の杜には、面影が残る。

スダジイ　ツブラジイ　アラカシ　シラカシ　イチイガシ　ウラジオガシ
ツクバネガシ　アカガシ　マテバシイ　シリブカガシなど

＊自生する地域を線引きはできない。例　コナラは北海道から九州まで

＊ただ、人工的に公園などに植えられた木も多い。

例　マテバシイは本来九州など暖かい地域

《この資料を作るうえで参考にした図書》

＊『ドングリの図鑑』トンボ出版
＊『ドングリハンドブック』 文一総合出版
＊『調べてみよう名前のひみつ　どんぐり図鑑』汐文社
＊『どんぐりノート』文化出版局
＊『ドングリ観察事典』偕成社
＊山渓ハンディ図鑑３『樹に咲く花』山と渓谷社
＊『ドングリの戦略』八坂書房
＊『雑木林に出かけよう』八田洋章　著　　朝日新聞社

《ドングリを勉強したい人におすすめの図書》

＊ハンドブックとしてドングリの検索図鑑
１、『ドングリの図鑑　フィールド版』 トンボ出版
２、『ドングリハンドブック』 文一総合出版
＊児童に向けた図書
３、科学のアルバム『ドングリ』あかね書房
４、かがくのとも『どんぐり』
５、『どんぐりノート』文化出版局
＊ドングリの工作
６、『ドングリと木の実のこうさく』
７、『まるごとどんぐり』
＊（大人の方に）ドングリの面白さを学ぶ本
８、『ドングリの謎』盛口満
＊（大人の方に）ドングリの食べ方
９、『どんぐりの食べ方　森の恵みのごちそう』素朴社
＊（大人の方に）もっともっと深く学習したい人には
１０、『雑木林に出かけよう』八田洋章　著　　朝日新聞社
１１、山渓ハンディ図鑑３『樹に咲く花』山と渓谷社